賢く節約 得のススメ

レンタル寝具

スペース節約、手入れも不要

来客用の布団をどうするか―。特に収納スペースが少ないマンションで生活する人にとっては頭の痛い問題だ。布団一式を購入して用意すれば、押し入れのかなりの空間を占めることになり、使う前後には手入れもしなければならない。そんな問題も寝具をレンタルすれば、安い費用で解決することができる。

（櫛田寿宏）

殺菌や検針も

寝具メーカーの丸八真綿の関連会社、ハッチ（浜松市南区）は、羊毛の敷布団と羽毛掛け布団、枕などをセットにしたレンタル寝具のサービスを提供している。電話やインターネット（http://www.hatchi.jp/）で注文すると、宅配便で寝具一式が希望日に届く。1～5泊の料金は、標準的セット「シンフォニー」が5670円。布団の組み合わせは、ウインターセット（オールシーズン用）、ハーフセット（春秋用）、サマーセット（夏用）から選べる。使用後は指定日時に宅配便業者が回収してくれる。

寝具はクリーニングしたうえで、オゾンによる殺菌を行う。金属片などが混入していないか検針も行っている。丸八真綿広報宣伝部の結城義則マネジャーは「高品質の布団と洗い立てのカバーシーツなので、従来の貸し布団のイメージとは全く違います」と胸を張る。

昨年は1年間に2万7千件以上のレンタルの実績があった。小中学校が夏休みになる時期や年末年始、ゴールデンウイークといった、人の動きが活発になる時期に需要が増えるという。

地方で暮らす人が都会の家族や友人に会いに来る際、申し込むケースが多い。最近は、都会に住む人が古里に帰省するときに利用することも増えているという。高齢の親にかかる負担を軽減することができるためだ。

結城マネジャーは「布団を干したり、シーツを洗ったりするのは時間も手間もかかります。そうした準備なしで快適に眠ることができます」と話す。

破棄する手間無し

ベッドのレンタルもある。サークランド（東京都江戸川区）が運営するサイト「かしてーどっとこむ」（http://www.kasite.com/）から申し込むサービスで、こちらは主に単身赴任者や1人暮らしの学生向けだ。

木製のフレームとマットレスがセットになっている。中古ベッドの場合、30日間の料金は1万3650円、2年間では2万9400円。フレーム、マットレスともに新品を借りる場合の2年間の料金は3万2550円だ。申し込むと配送と設置をしてくれる。

同社担当者によると、短期で利用するのは、夏休みに孫が泊まりにくる▽けがをしたので治るまで―などのケースだという。

マットレスは金属のスプリングを使っているので、廃棄する際は費用がかかる。しかし、レンタルなら使わなくなったら返却すればいいので廃棄しないで済む。費用がかからないうえ、資源も無駄にしないで済むのもレンタルベッドの魅力だ。

乳幼児向けマットも

ハッチは、保育園向けに開発した乳幼児向けのマット「アエル」のレンタルも行っている。

新開発のクッション材を使用しているため通気性が良く、汗をたくさんかく赤ちゃんでも涼しく快適に眠ることができる。汚れてもさっと洗い流すことができ、水を含まないので日陰干しでも短時間で乾く。

サイズは0～2歳用と0～5歳までの2種類。レンタル料は1カ月3000円、12カ月9900円で、ともに配達回収料（全国一律）は630円。

気軽にレンタルできるハッチのシンフォニー

サークランドのベッド。単身赴任者らに人気だ

生活 家計&マネー　日 月 火 水 木 金

口コミ広がり、復興支援も

フェイスブックで販促

売り上げも「いいね！」と伸びて―。インターネット交流サイト「フェイスブック」を販売促進に活用する企業や地方自治体が増えている。個人の感想をすぐに書き込めて友人らと情報を共有できる特性を生かし、口コミを広げるのが狙いだ。地域の特産品販売や東日本大震災の復興支援に利用する動きも出ている。

70万人のファン

「緊急帰宅支援キットのご紹介です」「簡単に野菜栽培が始められるセット」…。生活雑貨販売の「無印良品」を展開する良品計画は平成22年、フェイスブック公式ページを開設した。画面では幅広い商品やイベントを写真付きで紹介し、コラムも掲載している。

フェイスブックの会員は気に入った商品などがあると、推奨する「いいね！」ボタンを押したり、「こういうのが欲しかった！」といったコメントを書き込んだりできる。

フェイスブックは実名登録が原則。企業にとっては、現実の人間関係を生かした口コミで商品情報が広げられ、感想を商品開発などに反映できるメリットがある。無印良品のページで「いいね！」ボタンを押したファンは約70万人に上る。

生活雑貨を扱う東急ハンズの公式ページのファンも約18万人に達する。約60万点の商品から店舗やチラシで説明しきれないものを紹介し、問い合わせにも直接答える。

地域の特産品も

佐賀県武雄市は昨年11月、フェイスブック上で市の特産品を通信販売する「F&B良品TAKEO」を開設。市内の農家が作ったコメや野菜のほか、陶器を販売し、高級旅館の宿泊予約なども扱う。市の担当者は「小規模でも良い商品を扱う地元業者を応援したい」と狙いを説明する。

出品者は売り上げの5～9%程度を手数料として支払うだけ。市の担当者が、生産過程や使い方が一目で分かる記事や写真を載せ、投稿にも小まめに回答するのが好評で、月平均30万円程度の売り上げがある。

武雄市で約30年間続く人気カレー店「オイランタン」はカレーの通販で利用を始めた。スタッフの岸川和子さんは「市の運営サイトだから安心感がある。カレーは県外にファンも多く、通販は必要だった」。

PR会社のビルコムは震災復興支援の一環として、岩手、宮城、福島3県の特産品を販売する企業を紹介するページ「トウホク百貨部」を3月に開設。フェイスブック上に簡単に出店できるソフトを開発、企業はこれを無料で利用できる。

「気仙沼復興物産市」を出店し、ふかひれスープを販売する石渡商店（宮城県気仙沼市）は「フェイスブックで物を買う動きはこれから増えていくのでは」と期待する。

カレー店「オイランタン」で、フェイスブックに投稿するため料理の写真を撮影するスタッフの岸川和子さん＝佐賀県武雄市